

令和8年度小平市立小平第二小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全体平均は 61.0%で全国平均を 0.1 ポイント上回るものの、東京都平均を 4.0 ポイント下回っている。「言葉の特徴や使い方」や「書くこと」は比較的堅調だが、「情報の扱い方」や「読むこと」で落ち込みがみられる。

課題

目的や条件に応じて文章から必要な情報を適切に読み取り、自らの考えをまとめたり整理したりする活用力を高めることが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

【情報整理・読解力の強化】 いつ：各単元のまとめの時間

どのように：複数の文章や図表から必要な情報を抽出・比較するワークシートを活用し、要約や自分の考えをまとめる指導を実施する。

どの程度：学期ごとに「書く」領域で実施。

【算数】

状況の分析

全体平均は 58.0%で全国平均を 1.6 ポイント上回る一方、東京都平均を 5.0 ポイント下回っている。「数と計算」や「知識・技能」は身についているが、「変化と関係」や「思考・判断・表現」、記述式問題の課題が顕著である。

課題

数量の関係や変化の規則性に着目し、表や式、言葉を用いて筋道立てて思考・説明する力を高めることが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

【変化と関係・思考表現力の強化】

いつ：学校全体で算数の毎時間の振り返りタイムの実施（および月 2 回の「思考力チャレンジタイム」）

どのように：授業の振り返りの時間の確保。伴って変わる 2 つの数量関係を表やグラフに表し、その変化の決まりを「～だから～になる」の形式で記述・説明させる。

どの程度：全児童が単元テストの記述問題で考え方の根拠を 1 文以上書いて正答できる状態を目指す。

【英語】**状況の分析****課題**

児童質問をクロス分析した結果、英語学習への好意度と得意不得意は相関しており、得意・苦手の二極化が顕著にみられる。また、苦手意識を持つ児童（約半数）の割合が全国・都平均の約2倍に達している。

英語学習に対して、「得意でない」「好きではない」と感じる否定的な児童の割合が全国・都に比べて著しく高いため、授業内で段階的な達成感を味わわせたり、使用機会を増やしたりして苦手意識や心理的ハードルを軽減する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策**【英語を使う目的意識の醸成】**

いつ：英語の授業時間・普段の授業時間→学期ごと

どのように：英語の時間以外でも普段からペアワークの際に「声を出す」「相手に伝える」活動を取り入れ、肯定的に評価する。→ICT機器のWeb会議ツールを使い、他校・海外の児童とリアルタイムで簡単な自己紹介や質問をし合う短時間交流を設ける。

どの程度：普段の授業→年間に1～3回程度。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「学校に行くのが楽しい」（全国平均より+8ポイント）、「友達関係に満足している」（全国平均より+11.1ポイント）と学校での人間関係に安心感を得ている児童が多い。一方、「将来の夢や目標を持っている」に対し明確に「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均と比較して28.8ポイント低い。また、「自分で学び方を考え、工夫できている」に対し「できている」と答えた割合は、全国平均より35.2ポイント低い。

家庭での過ごし方では、平日にスマートフォン等でSNSや動画視聴を長時間（2時間以上）行う児童の割合は、東京都平均と比較して9.0ポイント高い。また休日に「学習時間が1時間未満または全くしない」と回答した本校児童の割合は、東京都平均と比較して16.0ポイント高く、休日に「3時間以上学習する」児童の割合は、東京都平均と比較して18.9ポイント低い傾向にある。

将来の夢や目標を自覚している児童の割合が著しく低く、日々の学びへの強い確信も持ちにくい。ため、多様な生き方に触れるキャリア教育の充実や、日々の学習成果を実感させて自己効力感を高める指導を行うことが必要である。

平日のメディア利用時間が長時間になっている場合が多く、児童への情報モラル指導を徹底するとともに、学校と家庭が連携してメディア利用のルール作りと定着を進めることが必要である。

休日の家庭学習時間が不足しており、自ら計画を立てて自主的に学ぶ意識が定着していないため、児童が目的意識をもって取り組める家庭学習の指導や工夫を行うことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

総合的な学習の時間や学級活動において、地域人材の活用や働く人々との交流機会を設け、自身の将来や興味・関心について考えるワークシートやキャリアポートフォリオを活用するとともに、現在の学習がどのように結びついているのか見通しがもてるように指導を行う。

授業内での情報モラル指導を実施し、時間の使い方を可視化・点検させるとともに、「我が家のメディア利用ルール」について話し合う時間を確保してもらうなど保護者に依頼・連携する。

週末の宿題に「単なるドリル課題」だけでなく、児童が自分で内容や目標を選択して取り組む「自主学習ノート」を継続して行い、学級で紹介する時間を設ける。また、授業内で「どのように考え、工夫したか」を共有・振り返る場面を意図的に設定する。